

【団体名：柏市医師会】

現状	・ 訪問診療の件数は年々増加傾向であり、推計が示すとおり今後も需要が増加する。 ・ 市外の医療機関のサービス提供割合は減少傾向である。 ・ 少しずつではあるが、南部エリアでも在宅医療に取り組む医師が増えている。
将来に向けての課題	・ 在宅医療では主治医の負担が大きいという認識がある。 ・ 病院医師、看護師、その他のスタッフが柏市の取組みを知らない場合がある。 ・ 医師の高齢化も今後進んでいく。
今後の取組の方向性	・ 柏市では「かかりつけ医が外来で診てきた患者を最期まで診ることができる体制が構築されている」ということを開業医や看護師等へ啓発する活動 ・ 病院と在宅との連携強化のための研修会や、顔の見える関係づくりの取組みの継続 ・ 在宅医療に対応できる医師の確保とネットワークづくり ・ 主治医・副主治医制の機能強化の仕組みづくり

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏歯科医師会】

現状	・ 高齢者施設は市外の訪問診療専門クリニックがほとんど対応している。柏歯科医師会では訪問診療を行う歯科医師を増やしているが、現場に入っていけない状況がある。 ・ 歯科衛生士不足が深刻で多くの訪問診療が効率的でない。 ・ 「お口のチェックシート」が十分に活用されていなく、歯科医療や口腔ケアの選択の優先順位が低い傾向がある。
将来に向けての課題	・ 訪問診療専門クリニックとの棲み分け。 ・ 地域に根ざした歯科衛生士の人材確保対策が急務。 ・ 他職種に対して口腔疾患の重症化防止、口腔機能低下への早期介入に「お口のチェックシート」が有効であることの理解度を高める必要がある。
今後の取組の方向性	・ 外来から診ていた患者をかかりつけ医が最期まで診る。 ・ 歯科衛生士の人材確保対策を進める。 ・ 特殊歯科診療所との連携のあり方を検討。 ・ 高齢者施設と歯科介護支援センターとの連携のあり方を検討 ・ 「お口のチェックシート」の活用事例を蓄積し、効果を検証するとともに他職種へ口腔機能低下への対応の必要性について認知度を高める。 ・ 高齢者施設との連携強化（顔の見える関係づくり）

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏市薬剤師会】

現状	- 在宅医療に関心をもつ意識の高い薬剤師が増え、在宅受入れ薬局数は47（H26）⇒64（H30）に増加している。 - いろいろな薬剤師と組んでくれる医師が増えてきている。 - 薬剤師にも在宅医療は負担が大きいイメージがある。 - 病院薬剤師の退院時処方薬の調整が患者や在宅での生活に合っていないことがある。 - 患者は薬局に来られなくても家族が薬を受け取りに来る。
将来に向けての課題	- 薬剤師の在宅医療に対する負担軽減。 - 病院薬剤師の理解と入退院時連携。 - 薬剤師の専門性や在宅医療のチームの一員であることを市民も他職種も十分に理解していない。
今後の取組の方向性	在宅医療に取り組む薬剤師の増加 （かかりつけ薬局としての認識と役割の発揮） 他職種との連携強化、薬剤師の専門性の周知 病院と在宅との同職種連携の推進（薬薬連携） 市民への啓発（薬剤師の専門性と役割の周知）

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏市訪問看護ステーション連絡会】

現状	・ 医師との連携では、会議や合同研修会等で顔を合わせる機会が多く、連携しやすい体制ができている。 ・ 事業所の母体法人や管理者の変更が多い。 ・ 市内事業所の状況は概ね把握できているが、近隣市外の状況が把握できていない。 ・ 推計が示すとおり、今後も上振れて需要が発生する。
将来に向けての課題	・ 主治医－副主治医との情報共有のあり方や連携の仕組みが統一されていない。 ・ 医師以外の他職種との連携が十分とは言えない。 ・ 事業所の体制が脆弱だと管理者等への負担が大きくなる。 ・ 近隣市事業所の状況が把握できていない。
今後の取組の方向性	・ 主治医－副主治医制と訪問看護ステーションとのスムーズな連携体制の構築 ・ 他職種とのさらなる連携強化 ・ 訪問看護ステーションの基盤強化に向けた取組みの強化 ・ 東葛北部地域におけるネットワークの強化

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏市介護支援専門員協議会】

現状	・ 介護支援連携加算等の状況から読み取れるとおり，医療と介護の連携の地盤はできており，実績も増加している。 ・ 病院や医療関係者からも声がかかるようになっている。
将来に向けての課題	・ ケアマネジャーの力量・他職種との連携の経験値に差が生じている。 ・ 同職種間の情報発信・情報共有が不十分である。 ・ 24時間生活を支える介護保険サービス（定期巡回・小規模多機能）も重要な要素となり，必要な市民が利用できる環境整備，効果的な導入の仕組みが必要である。
今後の取組の方向性	・ ケアマネジャーの質の向上・ボトムアップ ・ ケアマネジャー間での情報発信・情報共有の充実 ・ 市民にとって必要なサービスの発信と効果的な活用

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏市在宅リハビリテーション連絡会】

現状	・ 訪問でリハビリテーションを実施するセラピストはここ数年で2～3倍に増加している。 ・ 医師・看護師・ケアマネジャー等のリハビリテーションに対するイメージは変わり、理解が進み、協力関係が構築されている。 ・ 算定実績増加、他職種の理解促進については、特区事業所ができたことによる影響が大きい。 ・ 医師の判断によるサービス導入よりも、本人や家族の希望、サービス提供者からの勧めによりサービスが導入される傾向がある。
将来に向けての課題	・ サービス提供の目標やゴールの設定を共有するタイミング、機会を検討していく必要がある。 ・ 退院・退所後の対応にタイムラグが生じやすい。 ・ 病院との入退院時連携を強化していく必要がある。
今後の取組の方向性	・ 計画的なサービス提供によるリハビリの質の向上 ・ 「訪問リハビリテーション指示書書き方マニュアル」の活用による他職種との連携のさらなる推進 ・ 病院と在宅との同職種連携の強化（リハリハ連携）

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：東葛北部在宅栄養士会】

現状	・ 低栄養状態の方への支援の相談はあるが、実際の訪問栄養指導の支援にはつながらない。 ・ 日本栄養士会認定の栄養ケアステーションが市内に2～3ヶ所できる予定であるが、活動の周知が不十分である。 ・ 低栄養状態の改善、重症化予防のための栄養ケア支援の必要性が十分理解されていない。 ・ 病院や高齢者施設との連携の術がない。
将来に向けての課題	・ 在宅療養支援を行う栄養士間のつながりがない。 ・ 市内医療機関や高齢者施設との連携ができていない。 ・ 低栄養状態の予防・改善の必要性について十分な理解が得られていない
今後の取組の方向性	・ 柏市内の在宅療養支援に携わる栄養士が一堂に会する場づくり ・ 他職種との連携の機会の検討 ・ 病院，施設，在宅での情報共有ツールとして食事・栄養サマリー（医療栄養情報提供書）活用の仕組みづくり ・ 栄養ケア支援の事例を蓄積し，効果の評価・検証を行う

在宅医療介護連携の評価指標 各職能団体の考え

【団体名：柏市介護サービス事業者協議会】

現状	・ 医療介護連携の機会は増え、介護職員の意識も変化している。 ・ 24時間を支える地域密着型サービスが十分理解されていないため、必要な人が利用できていない。 ・ 介護職員不足の状況から現場業務に余裕がなく、研修や医療介護連携の場への参加の機会を十分に得ることができない。 ・ 施設看取りの状況は施設対応や医療との連携に差がある。
将来に向けての課題	・ 24時間の生活を支える重要性和地域密着型サービスの周知が不足している。 ・ 認知症の方への理解と本人の尊厳を重視した支援が十分ではない。 ・ 介護職員の医療知識が不足しているため、ケアの対応力が十分でない。 ・ 介護職員が不足している。
今後の取組の方向性	・ 地域密着型サービスについての効果的な周知・発信 （特性や利用の好事例についての効果的な発信等） ・ 介護職員が学ぶ機会の充実と対応力向上 ・ 看取り体制構築のための現状調査の実施 ・ 介護人材確保対策の継続（柏市介護のしごと相談会）

在宅医療介護連携の評価指標

各職能団体の考え

【団体名：地域包括支援センター】

現状	・ 医療ニーズの高い方でも在宅生活が可能になったが、医療・介護サービスの受け皿は十分とは言えない。 ・ 本人よりも介護者側に施設志向が強い。 ・ 定期巡回等の24時間を支えるサービスが少ない。 ・ 医療と介護の相互理解が不足している。 ・ 地域のインフォーマルサービスとの連携が不十分である。 ・ 市民の在宅医療や介護についての認知度が低い。
将来に向けての課題	・ 対象者に合わせた情報提供や意思決定支援等の相談支援 ・ 多職種との密な情報共有や連携体制の構築 ・ ひとり暮らしやキーパーソン不在、多問題を抱える世帯への相談支援
今後の取組の方向性	・ 既存の勉強会や交流会の場を活かして、医療と介護の相互理解を深めていく ・ センター職員の相談支援の質の向上 ・ センターと医療機関との連携強化 ・ ケアマネジャーの医療との連携スキルの向上 ・ 効果的な市民への啓発と社会資源の周知 ・ 医療、介護、地域との連携による支え合う体制強化